



トピックス

渡り途中の野鳥をウォッチング

3月のウトナイ湖は、特に水鳥の渡りシーズン。湖の水がとけると、主に本州以南で冬を越していたガン・カモ類やハクチョウ類が、繁殖地のロシアへ向かう途中に立ち寄ります。そんな姿を楽しもうと、3月18日に「春の渡り鳥ウォッチング」を開催しました。

まず始めに、レクチャールームで水鳥の渡りについて、また、見られそうな野鳥をスライドで紹介。その後は外に出て、屋根付きの休憩所「あずまや」と階段状のデッキで観察を進めます。白と黒の配色からパンダガモと称されるカモの仲間のミコアイサや、ほぼまっ白なシロカモメも観察できました。



パンダのような色合いのミコアイサを観察



レクチャールームで「鳥あわせ」

レクチャールームに戻ってからの「鳥あわせ」では、参加者から印象に残った種名を一つずつ挙げてもらい、どんな野鳥が見られたか、おさらいします。オオハクチョウなど水鳥の名前が真っ先に挙がると予想していたのですが、皆さんが最も印象に残ったのは、オオワシ。ウトナイ湖でも観察できるのが意外だったようです。結果、観察できたのは計11種で、終了後のアンケートには「こんなに多く見られるとは」など驚きの感想もありました。

「自然案内ボランティア講座」を開催しました

11月に続き「水鳥のことを伝えよう」と題し、3月11日に行ないました。自身で楽しむばかりでなく、水鳥を観察するコツや観察の仕方を当センター来館者に知ってもらおうという講座です。

水鳥の生態や見分け方などを紹介し、まずは野外で実際にカモ類を観察。子どもたちに興味を持ってもらえるよう考えられたプログラム「カモのしぐさビンゴ」を体験していただきました。これ



「カモのしぐさビンゴ」ゲームを体験



来館者に望遠鏡の使い方を説明する参加者(左右両端)

は、羽ばたくや食べるなど、9つの「しぐさ」がマス目に書かれたビンゴで、ゲーム感覚でカモの行動に注目するものです。

水鳥のことを伝える意義や役割についてレクチャーした後、午後は講座参加者が案内役を務め、来館者を相手に望遠鏡の使い方や水鳥の見方を説明するなど、現在当センターで実際に行なわれているボランティア活動を体験していただきました。

【自然観察路情報】

2018年3月8日(木) 10:00~12:00

観察された生きもの

《野鳥》

オオハクチョウ、マガン、トビ、オオワシ、オオアカゲラ
カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ

《植物》

ズミ、ホオノキ、カラコギカエデ、ハンノキ(以上、実やタネ)
ホオノキ、キタコブシ、エゾニワトコ(以上、冬芽)
エゾノバッコヤナギ(綿状の花芽)、フッキソウ(緑の葉)、ミズキ(赤い枝)

《その他》

キタキツネ、エゾシカ、エゾユキウサギ(以上、足跡)、野鳥の古巣(アオジ?)
ミヤマカラスアゲハまたはカラスアゲハのさなぎ



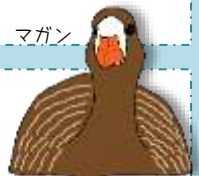
オオワシ



オジロワシ



エゾニワトコ



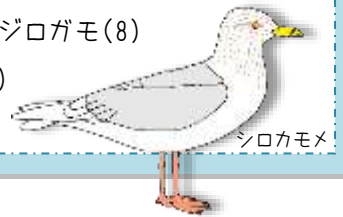
マガン

【水鳥カウント調査結果】

2018年3月16日(金) 15:00~16:00

観察された水鳥、水辺の鳥、ワシ・タカ類 * ()内は個体数、±は前後の意味

ヒシクイ(2)、マガン(333±)、コブハクチョウ(3)、オオハクチョウ(4)、オカヨシガモ(1)
ヨシガモ(37±)、ヒドリガモ(250±)、マガモ(341±)、カルガモ(3)、ハシビロガモ(1)、オシドリ(1)
オナガガモ(1400±)、トモエガモ(2)、コガモ(44±)、ホシハジロ(2)、ホオジロガモ(8)
ミコアイサ(22±)、カワアイサ(13)、カワウ(1)、ダイサギ(1)、シロカモメ(3)
トビ(5)、オジロワシ(3)、オオワシ(5)、種不明カモ類(102±)



シロカモメ

4月の自然予報

ハクチョウ類などの冬鳥と入れ替わり、夏鳥が繁殖のため渡って来ます。お馴染みのツバメやヒバリ、さらにはオオジュリンやノビタキ、ヤマシギやオオジシギなど、毎日のように新顔が増えていくでしょう。

水鳥の渡りはほぼ終わり。中旬までは、大きな群れで立ち寄りコハクチョウに出合えるかも知れません。滞在時間は非常に短いので、観察できればラッキーです。

木々の芽吹きはまだ先ですが、ハンノキやエゾノバッコヤナギは地味ながらも花を咲かせます。下旬からは白いキタコブシ、ピンクのエゾヤマザクラが開花するでしょう。

積雪があったわりに雪どけは早く、地面では黄色のナニワズや白いフッキソウが開花を迎えるでしょう。

林内の水たまりでは、エゾアカガエルの卵塊、もしかするとオタマジャクシも見られるでしょう。

成虫のままの姿で冬を越していたオツネトンボやクジャクチョウが姿を現すでしょう。



例年4月中旬に渡来するクロツグミ
よい声でさえずる



エゾノバッコヤナギの雄花。花粉を飛ばす

【キジムシロ】

4月～5月の明るい林で見られる、直径2センチほどの黄色い花。背丈が低い、バラ科の植物です。茎が地面を這い、そこから葉が広がる様子を、野鳥のキジが休む「筵」に見立て、名が付いたと言われています。



ウトナイ湖に関するクイズ。
毎回、その月にあわせたテーマで出題しています。
あなたもウトナイ博士になれる？かも。

Q. 多くの夏鳥たちが繁殖のため、南方から渡来するシーズンです。さて、ウトナイ湖周辺で4月中～下旬に初確認される夏鳥のオオジシギは、どこから渡って来るのでしょうか。

- (あ) 中国
- (い) マレーシア
- (う) オーストラリア



答えは最後のページにあるよ。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺（苫小牧市行政区域内）において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

ハヤブサ

2018年 2月 24日 14:30

ビルの外階段で飛べずにいるところを発見され保護。

体重 930g



バンテージによる外固定

2月24日 16:00頃、当センターへ搬入。左翼に大きな裂傷を確認し、直ちにレントゲン検査を実施した。骨折・脱臼等の骨格異常所見は認められなかったが、腱が断裂していたため、腱の修復手術およびバンテージによる外固定を行い、感染症予防のための抗生剤投与を開始。

3月7日 バンテージを外して数日後、嘴で處部をつつく自傷行為を確認したため、エリザベスカラーを装着。筋肉の硬直を予防するためのリハビリを行いながら経過観察中。



エリザベスカラー装着中

ハヤブサ (ハヤブサ目ハヤブサ科)

最も速く飛ぶ鳥として知られ、獲物を狙って急降下する際のスピードは、時速200kmを超えるといわれています。狩りは空中で行い、主に小～中型の鳥類を捕食しますが、近年ではビルのテラスや鉄塔などの人工物を利用する例も報告されています。巣材を使わず、地面に直に2～4個の卵をうみ、オスとメスが協力し合いながら子育てを行います。

イベント情報

春のウトナイ湖・ウォークラリー

日時：4月28日(土)・29日(日・祝)・30日(月・振休)・

5月3日(木・祝)・4日(金・祝)・5日(土・祝)・6日(日) 10:00~17:00

申込み：不要。当日、10:00~16:00の間随時受付

内容：約500mの自然観察路を歩いて一周しながら、途中のポイントに設置された春の自然に関するクイズに挑戦いただきます。ゴールでは答え合わせをし、参加賞をお渡しします。

(解答用紙を持って、それぞれ自由に問題を解いていくイベントです)



市民ギャラリー

好評につき期間延長

タンチョウイラスト展

日時：3月13日(火)~4月30日(月・振休)

展示：(公財)日本野鳥の会

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ



お知らせ

林の中の水たまりに産み付けられた、エゾアカガエルの卵塊。当センターでは今年も4月から、オタマジャクシに成長する様子を観察できるよう、館内での飼育展示を開始します。



◆ウトナイ湖◆

周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。

鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。

また、苫小牧市が業務の一部を(公財)日本野鳥の会に委託しています。

【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗156-26 TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間：午前9時~午後5時 / 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

